



美しい森林づくり推進国民運動

20年目を迎えた「ローソン緑の募金」と 森づくり・木づかいの取組

—— 株式会社ローソン



- 東京湾の埋立地に苗木を植える「海の森」プロジェクト
- 緑の募金箱にシールを貼って国際森林年とフォレスト・サポーターズをアピール



森づくり・木づかいなどの取組について語る、ローソン地球環境ステーションの樋口彰吾さん(右)と伊藤義人さん(左)



2011・国際森林年

森をささえよう

森と暮らそう

「ローソン緑の募金」は、平成4年「ローソン緑の街基金」として、全店舗に募金箱を設置したのが始まりです。平成9年に「ローソン緑の募金」に改称し、社団法人国土緑化推進機構への寄付を通じて、国内外のボランティア団体が実施する森林整備活動を支援しています。これまでに寄せられたお客様からの寄付は、ローソン本部の寄付金と合わせて30・1億円(平成22年2月末現在)にのぼり、国内外2298カ所、面積5704ヘクタール(※)の森林整備活動に役立てられてきました。これらの森林整備活動の一部には、加盟店のオーナーやク

地球に生きるすべての生物にとってかけがえのない森林を将来に残すため、平成4年に始まった「ローソン緑の募金」活動が、今年で20年目を迎えます。折しも、今年が国際森林年です。この節目の年に当たり、これまで以上に森林整備活動に協力していくとともに、お客様をはじめ多くの皆さんに、国際森林年に関する情報や森林整備の大切さを積極的に発信していきたいと考え昨年11月、フォレスト・サポーターズに登録しました。

ルー(パートタイマー、アルバイト)、社員も参加し、ボランティア団体の皆さんと一緒に汗を流しています。平成13年には、常日頃「ローソン緑の募金」に協力いただいているお客様への感謝を表したいという思いから、毎年5月の第3日曜日を「ローソン花と緑の日」と定め、花のたねのプレゼントを行うとともに、富士山での森林整備活動に取り組んできました。平成8年の台風17号により被災した森林跡地のうち34ヘクタールを「富士山ローソンの森」として、生態系豊かな自然の森に還元するため、植樹や育樹などの活動を実施し

※募金の総額および全体の活動実績から一定の仮定のもとに試算

4つのアクション
活動紹介



小学校での緑化活動を支援(写真は山口県の小学校)



富士山での植樹活動



間伐紙を使用した環境報告書、自由帳、花のたねの台紙



国産材のアオダモを活用した「みどりのかけ箸」

今日からやろう! 森のための

4つのアクション



森にふれよう



木をつかおう

ています。

平成18年からは、山間部での森林整備に加えて、小学校等での緑化活動を支援するプログラムを開始しました。学校での活動は、昨年12月末までに241校で実施され、次世代を担う子どもたちはもちろん、父兄をはじめ地域の皆さんが緑化に関心を持っていただくきっかけとしても役立つています。

さらに、平成21年からは、ごみと残土でできた東京湾の埋立地に苗木を植え、森に生まれ変わらせるとして東京都の「海の森」プロジェクトに参加。東京都内の約900店舗で募金活動を実施し、「海の森」へ植樹する苗木として寄贈しました。

ローソンは「木づかい運動」にも賛同し、間伐材などの国産材の活用にも積極的に取り組んできました。パットの製造過程で不適格となったアオダモを活用した「みどりのかけ箸」を商品化し、自分のお箸を常に持ち歩く「ケータイお箸運動」を推進しています。「みどりのかけ箸」の売上の一

部は、アオダモの森を育てるための活動に役立てられています。さらに、環境保全・社会貢献活動報告書や、学校緑化活動の際に子どもたちに配布する自由帳、「ローソン花と緑の日」でプレゼントしている花のたねの台紙などに間伐紙を使用しています。

ローソンでは、多くのお客様に森林の大切さを知っていただき、「ローソン緑の募金」を掲げていけるようさまざまな仕掛けづくりに取り組んでいます。平成19年からは、お買い物でためた「ローソンポイントカード」のポイントを「ローソン緑の募金」に寄付できるようにしています。

今年「ローソン緑の募金」20周年と国際森林年が重なった絶好の機会です。国際森林年にあたっては、店舗の募金箱に国際森林年とフォレスト・サポーターズのロゴマークの入ったシールを貼り、お客様にアピールしています。この節目をきっかけに、社内においても森林保全活動への関心を高めていきたいと考えています。